

事 項	黄体ランクFair牛に対する移植前後のホルモン処置法		
ね ら い	受精卵移植は、乳牛、肉用牛の改良増殖に有効な技術である。しかし、県内の受胎率は、ここ数年40%弱で推移しており、受胎率向上技術の開発が望まれている。一般に低受胎とされている黄体ランクFairの牛に、黄体ホルモン製剤を投与することにより、受胎率の向上が認められたので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 投与方法</p> <p>(1) ホルモン剤：人絨毛性性腺刺激ホルモン (hCG) 1500単位。</p> <p>(2) 投与時期：受精卵移植前日又は移植後7日目。</p> <p>(3) 投与部位：頸部筋肉内。</p> <p>2 投与効果</p> <p>(1) 黄体ランクFair（黄体長径1cm未満）の牛へ投与することで、受胎率の向上が認められた。</p> <p>(2) 移植前日又は移植後7日目に投与することにより、黄体機能の増強が認められた。</p>		
期待される効果	黄体検査により、移植不適と判断される牛への移植が可能となる。		
利用上の注意事項	技術内容で不明な点については、青森県農林総合研究センター畜産試験場 繁殖技術研究部に問い合わせる。		
担 当	青森県農林総合研究センター畜産試験場 繁殖技術研究部	対象地域	県下全域
発表文献等	青森県農林総合研究センター畜産試験場報告 第20号 平成15年度 畜産学会		

【根拠となった主要な試験結果】

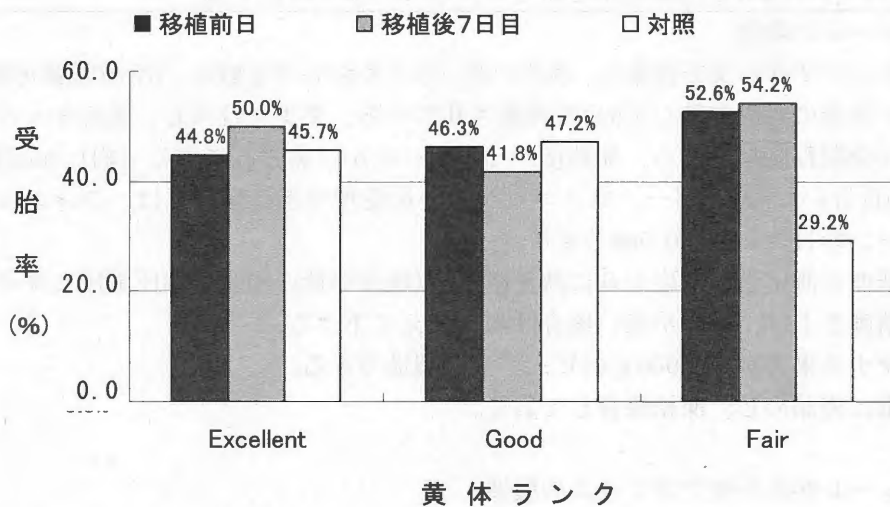


図1 黄体ランク別受胎率 (平成15年 青森農林総研畜試)

(注) 黄体ランクは長径により区別した

Excellent: >2cm

Good : 1~2cm

Fair : <1cm

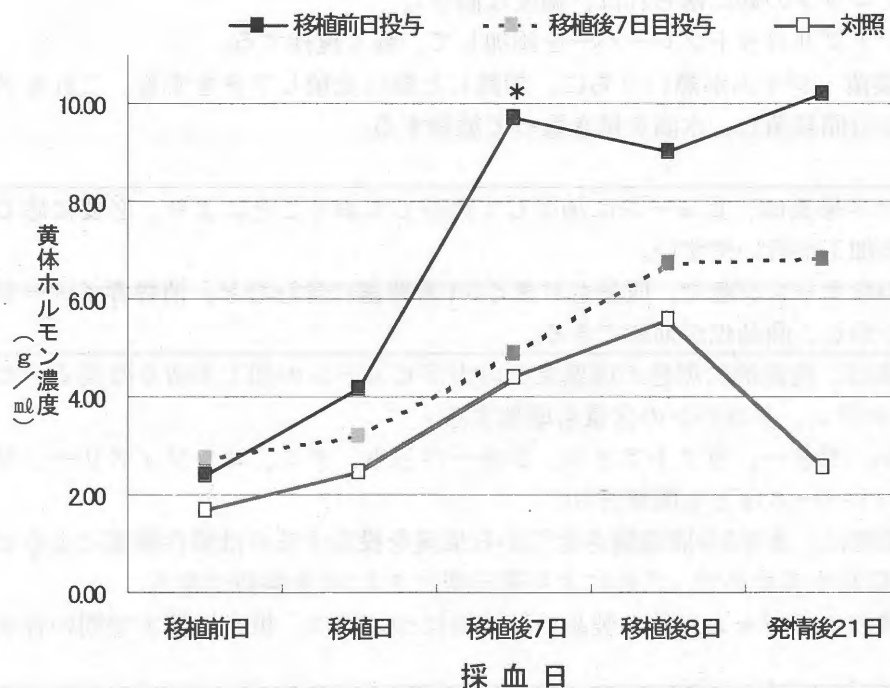


図2 黄体ランクFair牛における血中黄体ホルモン濃度

(平成15年 青森農林総研畜試)

(注) * : 1%水準で有意に増を示す